

食と旅 火

ふるさと 水

アート 金

得する 土

ぐるっと東日本

卒業生 それぞれの思い出

母校をたずねる

4月から連載した「母校をたずねる」埼玉県立春日部高校編には、多くの卒業生の方から反響が寄せられました。

手紙やメールでいただいた「私の思い出」の一部を紹介します。【まとめ・萩原佳孝、写真も】

埼玉県立春日部高校 ⑦

学んだ「自ら行動」

日本工業大准教授、松井克典さん(47) 1999年度卒、さいたま市

人生最高の4年間

元商社員、中台弘さん(86) 53年度卒、横浜市
新制中学1期生の私は春高定時制に入学。昼は町工場で汗を流し、夕暮

「おまえら頑張れ！」。英語の授業では教科書とは別に、英文の小説本を1冊渡され、期末試験でここまで出すから勉強しなさい、授業では扱わないし、どう出題されるかも知らせてくれない。運動会では内容、運営などほぼ生徒が決める。プログラムなど、作れとも言われないし、言わなきゃ材料も用意してくれない。だから、実行委員で主体的に考え、役割分担をして何とか当日を迎える。先生は承認だけ。自ら考え、創造し、行動できる。いい意味で生徒に任せてくれ、鍛えられた。おかげで、世の中でリーダーになって活躍している人が多いだろう。大学でコーチングやア



近代的な春日部高校の校舎。中央は図書館

クティブラーニングの研究をしているが、今の教育は「お膳立て」し過ぎの面も。当時の春高は究極のコーチングであり、学校全体がアクティブラーニングだった。

全日制の生徒たちが道いっぱい楽しんで通る過ぎていくのを、羨望と嫉妬のまなざしでながめ「負けないぞ」と誓った日も懐かしい思い出。将来は世界に羽ばたき暴れ回るという夢を抱くようになった。級友と風呂帰り、文学や音楽の話に夢中になり家に着くと手ぬぐいが凍っていた。友との絆も深く、寸暇を惜しみ勉学に励めたのは幸いだった。

眼科医、金井光さん(61) 78年度卒、横浜市
1976年に入学し、陸上競技部で小原敏彦先生にご指導いただきました。陸上競技部は県内屈指の名門で、毎年多数の部員がインターハイに出場していました。

「名門だ」とまどい

「だ」と声を上げました。全く縁のなかった横浜の地で、母校の陸上競技部がこれほど知られていることに驚き非常にうれしかったのと同時に、自分自身はどのような期待に応えられる選手ではなかったため、少しとまどったのを昨日のことのように覚えていいます。

春日部高校の卒業生は、同窓会を中心に強い結束力を誇る。新型コロナウイルスの影響で大学生の就職活動が困難に直面しているのを見た大手総合商社勤務の水戸部太一さん(32) 2006年度卒は20年12月、同窓会を起点に社会人OBに呼びかけ、春高出身大学生向けの就職支援活動に取り組み始めた。

同窓会の強い結束 就活にも威力

リーマン・ショック(08年)後の就職難を経験した水戸部さんは「就活の成否が、世代的社会的な要因で決まってしまうことに疑問を感じていた」という。「苦境にある後輩を支援したい」と、同窓会のフェイスブックなどで呼びかけたところ国内外の社会人OB約1300人が賛同。大学生にはフェイスブックや部活動の脈などを通じて声を掛けた。3月までにオンラインでの業界研究イベントを3回開催。OB訪問のコーディネートも約20回行った。学生からは「どの企業にも春高OBがいて、同窓のつながりを強く感じた」といった声が寄せられている。水戸部さんは「就職支援を通じて大手企業から内定を得られた学生もおり、手応えを感じている」と話す。

「精力善用」そのもの

民生委員、長島悟さん(73) 65年度卒、千葉県
柔剣道場の嘉納治五郎先生の扁額「精力善用」が文武両道の校風を象徴していました。

祥先生は映画「七人の侍」の宮口精二のように寡黙でカミソリの風貌を漂わせ、一方、陰では笑顔を絶やさない方でした。授業を真剣勝負の場と臨んでいました。

武では名物の「猪首」の松下吉蔵先生です。体育を教え、柔道部の監督でした。体育の時間、球技をさせず、運動場をずっとウサギ跳び。「若い時に鍛えろ。お前らはいずれオレに感謝する！」とうそぶくのです。「この野郎！」と耐えましたが、長ずるにつれ実感しました。3年間が基礎となりました。

包容力に励まされ

新聞記者、安永真人さん(62) 76年度卒、青森市
本気で自由闊達な校風で、生徒の個性を大事にしてくれました。「ジャーナリストになりたい」と

いう漠然とした希望は持っていたものの、勉強にも運動にも力の入らなかつた私は、1年浪人することになりました。

敏彦先生でした。浪人中、学校を訪れ、先生と話す機会がありました。先生は淡々と私の話を聞き別れ際に「いつでもここに来いよ」と言ってくれました。そんな包容力が春日部高校の教師、学校の魅力だと思います。

先日、小原先生がNH

次回から茨城県立土浦一高編

「母校をたずねる」は6月2日(白)から茨城県土浦市の県立土浦一高を連載します。